

令和2年度 第2回八尾市産業振興会議 議事概要

日 時	令和2年9月14日（月）15時00分～17時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 大ホール2
出席者	<p><委員> 山縣座長、阿部委員、居相委員、今岡委員、岡田委員、樫本委員、梶本委員、勝浦委員、佐藤委員、美馬委員、三宅委員、山田委員</p> <p style="text-align: right;">計12名</p> <p><事務局> 浅川部長、藤本課長、矢野参事、内藤室長、後藤課長補佐、中谷係長、藤原係長、松尾係長、村山、高尾 (運営支援事業者 出村氏・肥後氏・井上氏)</p> <p style="text-align: right;">計13名</p> <p style="text-align: right;">総計25名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

事務局より、本日の会議は滝本副座長、乾委員、河上委員、築澤委員、寺西委員、山本委員が欠席。全委員18名のうち12名の委員の出席となっており、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることが報告された。配布資料を事務局より確認。

2. 経済環境部長あいさつ

3. 議 事

－山縣座長による議事進行－

(1) 座長あいさつ

「エコシステム」という言葉は、元々は生態系と訳されていたが、人が生活している状況という意味でもビジネスにおいても使われてきている。もう少しかみ砕いて考えると「人」・「もの」・「金」・「情報」などがどうつながって動いているかということも「エコシステム」。エコシステムを考えることが今後の八尾市を考えることにつながっていく。議題の中にあるワークでは、誰が登場人物かを明確にさせることが重要。自分の取引先などがどう動いているか、わかっているようでわかっていないので、一つ一つ明確化させていくことで今後どうしていかないといけないかが描き出せるようになると思う。いきなり将来を考えるのではなく、現在の事業がどういうエコシステムで成り立っているかを考えていくことを今後の大きいテーマとして考えていけたらと思う。

次に事務局から八尾市の現状について話すが、それを聞いて自分が感じている現状とのギャップや感想など思ったことを付箋に書いてほしい。

(2) 八尾市の産業構造と現状について

事務局より資料に沿って説明。

ワークに入る前に今年度の委員で、前回欠席だった方に自己紹介してもらおう。

委員：高齢者の介護事業の会社を営んでいる。高齢者は社会的に弱者的な扱いを受けることが多いが、そういった方がもう一度元気になるような取り組みをしている。今期も八尾市のために頑張りたいと思う。

委員：喫茶店を営んでいる。数年前から産業振興会議の委員をしている。今年度もよろしく願います。

委員：製造業を営んでいる。他社には真似できない技術を活かし、今までにない新たなモノを作る、付加価値を生み出すことを一番の目標にして国内でのものづくりを存続させるべく日々頑張っている。日本だけでなく世界に通じるものづくりをして八尾を盛り上げていきたいと思っている。

(3) ワーク①

居相委員・今岡委員・美馬委員・山田委員の4つのグループに分かれて付箋に書いた内容を共有する。各グループにミニホワイトボードがあるので先ほど書いた付箋を貼り、付箋の内容について聞いている人はなぜそう思ったのかなど深堀りしていき、聞いている人が感じた事などをさらに付箋に書いて貼っていく。それを違うグループに分かれて、再度行う。

各グループの共有が終われば、座長が各グループのミニホワイトボードを見ながら全体共有をする。

委員：ある委員の事業所で8月に新型コロナウイルス感染者が出て対応が大変だったが、すぐに公表したことにより逆に信用を得たという話があった。事業所を休業したことにより二千万円の赤字が出たが、「お金は取り戻せても、信用は取り戻せない」と話されており素晴らしい経営者だと思った。またある委員は飲食店を営まれていて、大変かと思って話を聞いたが、元々テイクアウトもしており、酒類の提供もしていなかったもので、逆に売り上げは伸びているという話だった。ビジネスモデルが確立されており、不測の事態の中でも、しっかり対応できた。準備ができていないところが、急にテイクアウトを始めても上手くいかないケースを聞いていたので、やはり日ごろからの準備が大切だと感じた。コロナの影響を受けていない企業は、日ごろの準備ができていた企業だと感じた。

座長：情報を開示するかしないかが今回大きな境目になると感じる。イレギュラーをどれだけ想定できるかが、これからを考えていくうえで大事になると思う。情報を開示することはリスクでもある。開示することで、会社をクビになった事例もある。開示することと受け入れてくれる人はセット。

事務局：時間がおしているため、一番付箋の多い今岡委員のグループに発表いただきたい。

委員：私の感想でいうと、八尾市のデータでは製造業が多いが、製造出荷額が高いのは大手企業に支えられているからだと思う。20年前のピーク時から比べると事業者総数が半分くらいに減っている。全体から見るとまだまだ製造業が多いが、そこに捉われるのではなく時代の流れにあわせて多様な事業の展開に目を向けていかないといけないと思う。飲食・生活相談員の意見で、家に引きこもりがちになっていて経済の停滞感が感じられる。なにか新しい一歩を踏み出さないといけないという話のところで時間がきてしまった。

座長：製造業が多いというのは八尾を考える上ではやはり重要になっていて、ある委員の話で、お年寄りの声を拾うのが大事。オンラインを使えない人がいることも事実であり、オンラインだけになるとは思っていないが、組み合わせることで、声を拾うことができるし、そこに新しい価値を生み出すことができると思う。いま問題と考えられていることが解決できればより可能性のある未来が描き出せるのではないかなと思う。

次のワークでは、事業者も生活者も誰から誰にお金が動いているのかを考えていただきたい。

(4) ワーク②

座長より、CVCAについて説明。

座長：CVCAとは顧客データ分析。誰にどんな価値（満足）をもたらしているのか。登場人物がどうつながってどんな価値をもたらしているのか。営利でも非営利でも当てはまる。自分たちの事業がどうつながっているかを書いていってほしい。

その後3つのグループに分かれて、発表し合い、話している中で、図式の修正や変更は随時行う。
各グループで出た気づきをリーダーから1分程度で話してもらう。

委員：ある委員の取組みの話で、年齢ごとにSNS等を使い分けて宣伝の仕方を変えている。その中で、映画のコマーシャルが一番幅広い年代に効果があったと話していたのが印象に残った。子どもからお年寄りまで、何をしている人かは知らないが、その委員を知っているというのはすごいことだと思った。

委員：グループ全員でお金の流れと関連する会社の話をしていく中で、改めて各委員の事業同士がつながっていると気づいた。

委員：各委員多種多様な事業をされていることを共有できた。

座長：図式を書いてみて、改めて気づくことが多くあると思う。私は、普段は学生のために講義をしているが、学生が企業に就職することを考えると、私のサービスの提供先は企業になる。また、学費を出しているのは親御さんなので、親御さんがお客さんという考え方もできる。そう考えると、実は学生がお客さんというのは間違っているのかもしれない。しかし、学生も10年後くらいにはお客さんになっている可能性もある。どの時点でのお客さんなのか、どの先にお客さんがいるのか、案外書いてみないとわからないことが多々あると思う。今回グループで議論した意図として、人から聞かれて気づくこともあるから。聞く人は素朴に聞くことが大きな意味を持つ。自分たちが何をしているのかを図式化して明確にすることで、自分たちの事業の広がり気づくことができるのが、このワークのメリット。今回は聞けなかったが、自社の従業員・取引先・協力会社で八尾に住んでいる人がどれだけいるかを把握すると、八尾市と他市とのつながりを把握することができる。検討部会でこういった点を深掘りしていけたらと思う。これから先の話として、八尾がどれだけ他地域に入り込んでいるかを理解していくことが、今後の八尾市の施策を考えるうえで大事になる。

(5) その他連絡事項について

座長より検討部会のメンバーの選定について事務局案でいいか決議。

次回の産業振興会議検討部会は10月5日(月)18時30分から同会場で開催を予定。

4. 閉会

以上